

意思決定のための新しい科学
“レギュラトリーサイエンス”
を学び、地域社会と世界の環境
問題に取り組もう！

現代社会では、特定分野の深い知識を持つスペシャリストの他に、広範囲の知識を武器に、プロジェクトの企画構成や意思決定を行うジェネラリストも求められています。

私はこれまで、“環境”をキーワードに、科学技術（理系）と人間社会（文系）の調和を目指すレギュラトリーサイエンスをベースとして、研究教育に取り組んできました。皆さんと共に、新しい学部を一緒に作り上げていくことを、楽しみにしています！

講義例 ～循環型社会形成論～



「循環型社会形成論」では、規制的手法や経済的手法を用いた環境政策の基礎、そして環境を評価するための考え方やツールについて学びます。更に後半では、「リスク」の考え方について解説する予定です。



科学技術が発達し、経済が成長する過程で、様々な化学物質が環境中に排出され、公害や地球環境汚染など、人間の命や健康的な生活を脅かすようになりました。科学技術や経済の発展によるリスクとどのように付き合っていくかを学びます。

文理融合型の問題を分かり易く解説します。



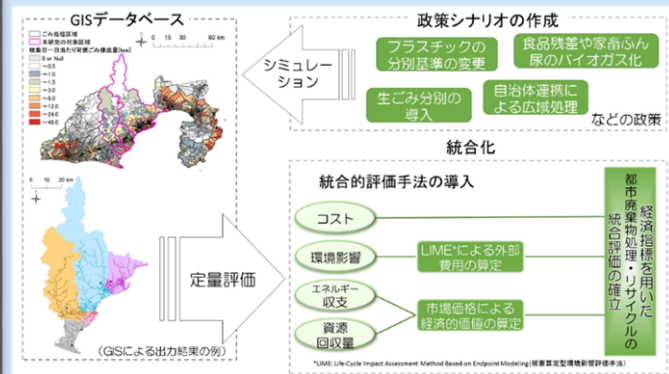
私たちの社会が水や食品中の化学物質等のリスクを、どのようにコントロールしているか、「基準値」に着目しながら考えてみよう！「基準値」の根拠は、科学だけではないのです。



更にロールプレイを導入して、リスクの考え方を学びます。ロールプレイとは、ある役割になったつもりで、意見を出しながら議論すること。例えば、ある化学物質が水道水質基準値を超えた時、「行政」「メディア」「科学者」「市民」「小売業者」の立場に立って、ディスカッションしてみましょう。



研究活動例 ～都市廃棄物処理・リサイクル政策の統合的評価手法の開発～



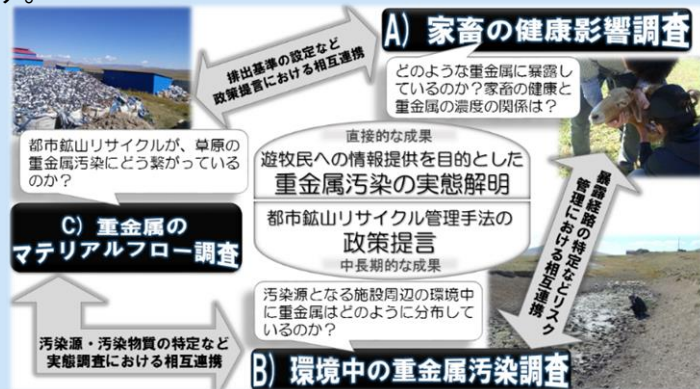
都市廃棄物(家庭ごみなど)の分別・処理・リサイクル政策は、市町村によって異なります。果たしてどのような方法が、環境や経済にとって良いのでしょうか。この問いに答えるべく、地理情報システム(GIS)や被害算定型環境影響評価手法(LIME)などのツールを活用し、都市廃棄物処理の政策決定支援モデルを開発しています。

都市廃棄物政策決定支援モデルの構成(データは静岡県为例)
* 宮崎県の家ごみやバイオマス系廃棄物などを事例として研究を進める予定です。

研究活動例 ～モンゴル国のモータリゼーションと重金属汚染の実態調査～

モンゴルでは、自動車用鉛バッテリーを、管理が行き届かない都市郊外の草原で不適切な手法でリサイクルしています。そのため、遊牧されている家畜の健康被害が懸念されています。

そこで私は、環境科学、生物資源学、社会工学の視点から、右図のような学際領域の研究プロジェクトを立ち上げました。現在、異分野の専門家や現地の研究者と共に、この問題を調査研究しています。



卒業後の就職イメージ

県庁・市役所など行政職員、環境系コンサルタント・シンクタンク、環境NGO、リサイクル業、大学院進学

取得可能な免許、資格

技術士補(技術士一次試験に合格し、登録を申請する必要があります)